岩手県立博物館だより

Newsletter of the Iwate Prefectural Museum
岩手県立博物館ホームページアドレス
https://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

2023. 3 No. 176

目次／新収蔵・新指定展Ⅱ　自然史編 **表紙**／いわて文化ノート**p.2-3**／展覧会案内　新収蔵・新指定展Ⅱ　自然史編　～2018年度からの新コレクション～**p.4-5**／事業報告　第84回地質観察会「陸前高田市の玉山金山を歩く」／事業報告　令和４年度ミュージアムコンサート「松園シルバーダックスによる合唱コンサート」**p.6**／事業報告　民俗講座「たいけん！むかしのくらし」／事業報告　博物館でまなぶ岩手の歴史講座**p.7**／インフォメーション**p.8**

新収蔵・新指定展Ⅱ

自然史編

2018年度以降、新たに収蔵された自然史（生物・化石・岩石標本）資料を中心に展示します。

■いわて文化ノート

続けていくということ

専門学芸員　川向　富貴子

ドロノキの採集
（2017年７月撮影）

遠野市・駒木鹿子踊
（2015年９月撮影）

紫波町・犬吠森念仏剣舞の大笠
（2005年８月撮影）

当館では新たに国や県の文化財となった、あるいはユネスコの世界遺産、無形文化遺産に登録された文化・自然遺産を紹介する展覧会を不定期に開催しています。その準備として、関係機関や保持団体の方々を訪ね、さまざまなお話を伺っています。

その度に、歴史を紡いでいくことの難しさを知り、その努力を惜しまない皆さんの姿に心打たれます。そして、地域博物館としてどのような形で関わっていく必要があるかを考えさせられます。

■2017年の夏、朝6時に駒木鹿子踊保存会（遠野市松崎町／県指定無形民俗文化財）の皆さんと待ち合わせ、遠野市内の山へ入りました。しし踊りのししの頭から垂れた鬣の材となるドロノキ（ヤマナラシ）の伐採作業を取材するためです。当日は若い踊り手も仕事の前に参加し、ベテラン勢から木の見分け方や加工方法を教わりつつ作業をしていました。

ドロノキの鬣は鉋で削り成形することからカナガラ（カンナガラ）と呼ばれます。この白く美しいカナガラは時間が経つと黄色く変色してしまうため、こまめに更新する必要があります。

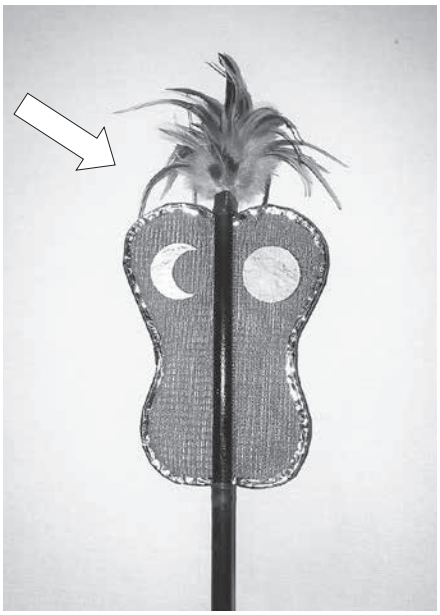
そこで、同保存会ではドロノキの安定確保のため、試験的に植林を始めたのだそうです。

「昔は遠野市がドロノキの苗を配ってくれたこともあったと聞いているよ。でも、踊りを続けていくためには、自分たちも努力していかないとね」と、保存会の岩間一実さん。

■ドロノキのカナガラは、大きな笠を振る踊りが特徴的な大念仏（念仏剣舞の一種）でも使われています。犬吠森念仏剣舞保存会（紫波町／県指定無形民俗文化財）では、ドロノキが湿気を帯びている夏場に採集し、木が乾燥しないうちに職人さんへ鉋がけをお願いしているそうです。それを何本かずつ束ねて錘を下げ、屋内の日が当たらない場所に数か月間吊るしておき、白くて真っすぐなカナガラを用意しているようです。

「カナガラの予備が少なくなったから山へドロノキを採りに行かなければいけないが、なかなか日程の調整がつかない。しかも、いつも鉋がけをお願いしていた職人さんに頼めなくなってしまったから他を探さないと」と、保存会長の阿部裕悦さん。地元で職人が見つからない場合は、岩谷堂箪笥など近在の木工職人の方を紹介することになりました。

■2022年は、複数の芸能団体から鳥の



新作の唐団扇〔部分〕
（永井大念仏剣舞保存会 画像提供）

羽根が見つからないとお話がありました。鳥の羽根もまた、しし踊りや剣舞などの装束・道具類に欠かせない素材です。

たとえば、2022年秋にユネスコの無形文化遺産「風流踊（ふりゅうおどり）」のひとつとして登録された永井の大念仏剣舞（盛岡市／国指定無形民俗文化財）。

同保存会では、「ふくべ」「唐団扇（とうちわ）」という踊り手の持ち物の装飾に鳥の羽根を用いています。10年ほど前は毛ばたき（ほこり取り）を解体して新調したそうですが、最近は化繊（かせん）素材のはたきしか見当たらないとのこと。

そこで、今回は岩手県立盛岡農業高等学校が飼養している南部かしわ（天然記念物「岩手地鶏」の血を引く岩手県固有の地鶏）の尾羽根を譲っていただくことになりました。あわせて、当館の鳥類担当学芸員が鳥の羽根の取扱い方をレクチャーしました。

数か月後、保存会長の小笠原康則さんから新作の「唐団扇」画像が送られてきました。小笠原さんは「子どもたちのために、もっとたくさん作らないと」と意気込んでおられました。

■感染症の影響により2023年も規模縮小開催となった大原水かけ祭り（一関市大東町／県指定無形民俗文化財）。

同祭りは裸祈願者による「水かけ」の場面のみが広く知られますが、実際にはさまざまな役があり行事を支えています。

たとえば、裸祈願者たちに続いてカセオドリと呼ばれる少年たちが街を走り抜けます。彼らは女人禁制のため祭りに参加できない厄年女性などの代わりに水かけ行事で出走します。

この少年たちは、反物にハサミを一切入れず、振袖の形となるように折り畳んで縫い上げる特殊な衣装を着用します。この振袖は、祭りが終わると縫い糸をほどいて反物に戻し、再活用していました。しかし、最近は縫い目を解かず次の利用機会まで大切に保管する家庭が増えたため、振袖の作り方を知る人が少なくなってしまいました。

大原水かけ祭りで少年たちが扮するカセオドリ〔現在は加勢人（かせっと）と呼ぶ〕とその衣装（2013年2月撮影）

そこで、保存会では独自に講習会を企画し、その製作技術の伝承に努めています。

民俗芸能や祭礼を続けていくためには、後継者や上演機会の確保ばかりでなく、周辺の整備にも心を砕いているのだと改めて実感しました。

この周辺環境の整備は、地場産業や歴史的建造物の維持管理においても重要な要素となります。

■2022年10月、二戸市浄法寺町で44回目となる「浄法寺漆（じょうぼうじうるし）」の共進会（二戸市・岩手県浄法寺漆生産組合主催）が開催されました。共進会は品質向上などを目的に行われる品評会で、浄法寺漆の生産組合に所属する漆掻き職人が一堂に会します。今回は44名の職人さんたちが自身の採集した漆を木製の樽に入れ持ち寄りました。

この木製樽は一戸町在住の樽職人・上平義弘さん（1943年生まれ・79歳）がお一人で製作を請け負っており、年間200個以上を納品しているそうです。

現在、2名の若い漆掻き職人が上平さんのもとに弟子入りし技術を学んでいます。しかし、2つの職人技を同時に覚えなければいけないため、一人前となるには長い時間を要するようです。それに加え、近在に鍛冶職人がいないため、漆樽を作るための道具もまた自身で生み出しメンテナンスを行う術を身につけなければならないとのこと。

浄法寺漆の生産技術は世界に認められる文化遺産となりました。しかし、その生産環境はいまだ不安定な状況にあるのだと取材を通じて再認識しました。

浄法寺漆共進会の様子（2022年10月撮影）

樽職人・上平義弘さんの作業場にて（2022年10月撮影）

■展覧会案内

新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編 ～2018年度からの新コレクション～

会期：令和５年３月25日（土）～ 令和５年５月７日（日）

はじめに

本テーマ展では、新収蔵展・新指定展の第二弾、文化史編に続く自然史編（生物・地質）を開催いたします。生物・地質部門では2018年以降、約３万８千点にも及ぶ資料が新たに登録されました。今では収集が難しい資料も多く価値ある貴重なものばかりです。ぜひ、ご来館いただき、選りすぐりの資料をご覧いただければ幸いです。ここではその一部をご紹介いたします。

１章　生物部門

（１）県産鳥類の仮剥製標本

鳥類や哺乳類の剥製標本は、展示用の本剥製と研究保管用の仮剥製の２タイプがあります。当館は本剥製を数多く収蔵してきましたが、近年は県産鳥類の仮剥製も数を増やすように努めています。新たに収蔵された中での注目は、沖合で生活するクロコシジロウミツバメです。日本では本県の三陸沿岸の３つの無人島だけに少数が繁殖し、まさに岩手県を代表する希少な海鳥です。目にする機会がほとんどない実物をぜひともご覧ください。

クロコシジロウミツバメ（左）と
ハイイロウミツバメ（右）の仮剥製標本

（２）キジとヤマドリの交雑個体

日本固有種であるキジとヤマドリは分類的にかなり近縁ですが、キジは河川敷や農耕地など開けた環境に、ヤマドリは里山より奥の森林環境に生息し、２種が野外で出会うことはほとんどありません。そのため、この２種の交雑は野外ではほぼ起きない、極めて珍しい現象です。この本剥製は1968年に宮城県東松島市の山林で狩猟された交雑個体の雄で、全体的には赤銅色でヤマドリらしいですが、首や尾などにキジの色模様が見られます。

キジとヤマドリの交雑個体の本剥製

（３）チョウセンアカシジミ（青山之也コレクション）

チョウセンアカシジミはチョウの一種で、国内では岩手県・山形県・新潟県の一部に生息しています。珍しいチョウとして人気があり、過度に採集されたほか、幼虫の食樹であるトネリコの伐採などにより個体数が減少しました。1970～80年代に、岩手県では市町村の、山形県では県の天然記念物に指定されましたが、その後も減少が続き、現在、環境省及び生息地の各県で絶滅危惧種とされています。

青山之也氏は、本種についての長年の調査結果を「チョウセンアカシジミ―謎を秘めたチョウ―」と題して本にまとめ、2021年に自費出版されました。収集した2,000点を超える標本は「本種が日本で最初に発見された県に」との御意志により、当館に寄贈していただきました。この中には日本の各生息地の他、国外の生息地であるロシア、北朝鮮、韓国、中国産の標本も含まれています。本種は生息地ごとに翅の模様が少しずつ異なっており、その違いを知ることのできる大変重要なコレクションです。

チョウセンアカシジミ標本

（４）県立水沢農業高校旧蔵資料

今年創立120周年を迎えた岩手県立水沢農業高等学校は、前身である胆沢郡立胆沢農業学校の明治36（1903）年開校に始まる、伝統ある農業高校です。その農場の倉庫に保管されていた古い教材や生物・地質標本が、令和３年度に当館に移管されました。本展では、これらの貴重な教材や標本の一部を展示します。

写真の「蚕体解剖模型」は、大正時代に製作・販売されていた養蚕指導用の教材で、消化管など内部構造が特に精巧に作られています。箱書きに「郡立胆沢農業学校　大正８年２月調整」とあり、購入年が分かります。当時の同校の指導事項の中でも養蚕は重要な部分を占めており、蚕の解剖実習も行われていました。

蚕体解剖模型（大正時代）

同校からは押し葉標本約5,000点も移管されました。昭和19年～34年に同校に勤務した岩渕初郎と、同校の自然科学部員が採集したもの、また同校に付設されていた水沢科学博物館が収集したものが中心で、採集時期が1900～1950年代と幅広く、研究史上もきわめて重要な標本群です。この中から特に貴重なものを選んで展示します。

２章　地質部門

（１）南極片麻岩

第14次南極観測隊（昭和48年）に参加した隊員が日本に持ち帰った南極片麻岩です。日本の南極観測の拠点である昭和基地周辺のリュツォ・ホルム岩体で採集されたもので、観測隊記念プレート(真鍮製)と共に寄贈いただきました。片麻岩の特徴である有色鉱物と無色鉱物が縞状に並ぶ片麻状構造が顕著に現れている様子を観察できます。サイズも大きく存在感ある展示をご覧ください。

南極片麻岩（リュツォ・ホルム岩体）

（２）宮古層群化石標本

（小守コレクション）

寄贈者である小守一男氏が長年に渡り、主に田野畑村を中心に採取してきた化石の数々です。そのコレクションは全部で558点に及びます。宮古層群は、白亜紀前期（約１億１千万年前）の地層です。現在では国立公園化され採取が難しい地域の化石であり、大変貴重な標本です。なかには新種の可能性があるアンモナイトが数点含まれており、今後の動向が気になるところです。

アンモナイト
ドウヴィレイセラス　バイフルカタム

（３）舛沢層・沢山層化石標本

（五井コレクション）

写真は、雫石町に分布する舛沢層から産出した植物化石です。形状が鮮明で保存状態に優れた標本です。舛沢層はすでに陸化していた約500万年前に湖で堆積した地層と言われています。雫石地域が徐々に隆起し陸化していく過程の一端を物語る貴重な化石です。寄贈者の五井昭一氏から博物館活動の中で有効活用して欲しいとの申し出により、久慈市に分布する沢山層の植物化石とあわせて、全125点の標本を寄贈していただきました。

ハリギリ属の一種

（４）岩手大学工学部旧蔵標本

岩手大学工学部（現　理工学部）で採集され、調査研究に用いられていた標本です。写真は、古生代デボン紀後期（約３億７千万年前）のリンボク（レプトフリーアム）というシダ植物の化石です。きれいなうろこ状の模様を観察することができます。全382点の標本を寄贈いただきました。見応えのある化石の数々をぜひご覧ください。

リンボク　レプトフリーアム

関連イベント紹介

（１）講座（県博日曜講座）
令和５年４月９日（日）
「剥製から生まれる鳥類学」
講師
岩手県立博物館
専門学芸員（生物）　髙橋　雅雄

令和５年４月23日（日）
「生命史をひも解く
― 白亜紀（後編）―」
講師
岩手県立博物館
専門学芸員（地質）　望月　貴史

（２）展示解説会
令和５年３月26日（日）
令和５年４月23日（日）
どちらも15：00～16：00

■事業報告

第84回地質観察会「陸前高田市の玉山金山を歩く」

開催日：令和４年10月30日（日）

今年度2回目の地質観察会は10月30日（日）に陸前高田市竹駒町で開催しました。今回の地質観察会は玉山金山を中心として、その成り立ちや歴史、金山を生み出した周辺の地質を理解することを目的に行ったものです。

朝に玉山金山付近に集合した後、開会式を行いました。式では今回の講師を務めていただいた紫波町文化財調査委員の蒲田理氏と観察会に御協力をいただいた竹駒牧野採草地農業協同組合の及川賢治氏から玉山金山の概要についてお話をいただきました。

水晶採集体験の様子

その後、蒲田氏の案内のもとで玉山金山周辺に分布する氷上花崗岩（ひかみかこうがん）や壺の沢片麻岩（つぼさわへんまがん）などの観察を行いました。これらの岩石はどちらも北上山地の中でも成り立ちが古いもので、約4億5000万年前に形成されたと考えられています。また、玉山金山の金鉱床はこの時の活動に伴って形成されたものとされています。

次に玉山金山に移動し、千人坑や和右ヱ門坑といった藩政時代に作られた坑道跡を見学しました。玉山金山は古くから一大産金地として有名であり、採掘が本格化した戦国時代以降では、豊臣秀吉や伊達政宗といった名だたる武将によって稼業された記録が残っています。

最後に日本金鉱山株式会社の敷地に入らせていただき、金の採取等に使われていた機械類の観察をさせていただくとともに、ズリ山で水晶の採集体験をさせていただきました。参加した子どもの中には、博物館で展示されるようなきれいな形をした水晶を採取した子もおり、とても満足していただけた様子でした。

最後になりますが、講師の蒲田氏をはじめ、本観察会の実施に多大な御協力をいただいた竹駒牧野採草地農業協同組合様や日本金鉱山株式会社様、関係各位に心より感謝申し上げます。

（専門学芸員　望月　貴史）

■事業報告

令和4年度ミュージアムコンサート「松園シルバーダックスによる合唱コンサート」

開催日：令和４年11月20日（日）

当館では、幼児や児童を含めて誰でも気軽に音楽に親しむ機会を提供することを目的とし、平成28年度からミュージアムコンサートを実施しております。

今年度は平成29年度にご出演いただいた松園シルバーダックスを迎え、11月20日に当館地階の講堂にて開催いたしました。

松園シルバーダックスは、平成14年にシルバー世代の合唱サークルとして発足し、合唱練習を中心に地道な活動を続け、その成果を県内の芸術祭やコンサートで披露してきました。被災地慰問コンサートや松園近隣の病院や老人福祉施設での慰問演奏などの活動も精力的に行っており、実力派の合唱団として広く県民に親しまれています。

当事業は感染症対策の観点から、予約制60名までとしましたが、予約開始からほどなく定員に達する盛況ぶりでした。

今回はプログラムとして11曲、アンコールにお応えして３曲の計14曲を披露いたしました。団歌の「花かおる丘に」にはじまり、石川啄木の詩「やわらかに」「不来方の」「ふるさとの」が披露され、美しくも重厚な歌声が会場を暖かく包みます。しばしの休憩時間では、出演者が80歳代を含むご高齢の団体のため、椅子に座っていただきましたが、休憩中は指揮者・洞口保雄氏の軽快なトークが続きます。「それでは体力も回復してきたところで次の曲にまいります。」会場が和やかな笑いに溢れ、観客席との一体感が醸し出されていきます。「里の秋」「希望の島」

松園シルバーダックスの皆さん

「Load I Want Be A Christian」「権兵衛が種まく」「はるかな友に」「雨」「ふるさと」が披露され、素晴らしい歌声に観客は皆大変満足されていたようでした。また、アンケートでは定期公演を望む声も頂戴したほどです。

今年度も大変盛況なコンサートとなりましたが、次年度以降も当事業を継続してまいります。どうぞご期待ください。

（主任専門学芸員　米田　寛）

■事業報告

民俗講座「たいけん！むかしのくらし」

開催日：第１回　令和４年８月20日（土）、第２回　10月23日（日）

民俗講座「たいけん！むかしのくらし」は、当館所蔵の民俗資料を活用し、電気や水道がなかった頃の生活を体験することもを対象としたワークショップです。

第１回の昔の道具は、洗濯や灯り、氷削機。洗濯ではサイカチ・トチ・エゴノキの実を金盥のぬるま湯で揉みほぐし実から出る泡で布を洗います。氷削機は、家庭でかき氷を作るための木製の氷鉋で中央にある刃の下に器を置き、氷の塊を鉋台の上で前後に動かして削りました。また、当館の南部曲がり屋で提灯や燭台、行灯などに実際に灯りを灯し、蠟燭の明るさを実体験してもらいました。

第２回は、千歯こき・石臼・唐箕を体験。稲束を脱穀し、唐箕で選別する過程とその仕組みを学んでいただきました。石臼はまず上臼と下臼に刻まれた溝を観察。材料を粉にする仕組みを見ながら大豆、蕎麦の実を挽きました。

普段展示されている昔の道具は実際に使ってみるとその工夫になるほどと納得する半面、手作業の大変さが実感でき、道具をとおして昔のくらしを追体験することができます。

今年度は、ご予約いただいた方を中心に第１回は25名、第２回は29名の方々にご参加いただきました。博物館の中でしか見ることがなかった道具を実際に使うことができとても良い体験となった、自由研究に役立つなどの感想をいただきました。今後も資料を活用し、触れることで学べる機会を継続して設けていきたいと思います。

今回のイベント実施にあたり昨年同様岩手県立盛岡農業高等学校様から稲束を、株式会社IBC岩手放送様からはサイカチの実をご提供いただきました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

（主任専門学芸員　近藤　良子）

■事業報告

博物館でまなぶ岩手の歴史講座

開催日：令和４年９月24日、10月１日、15日、22日、29日、11月５日（いずれも土曜日）

この講座は歴史を専門的に学んだことのない方や基礎から学びなおしたいと考えている方を主な対象として、古代から現代までの岩手県及び日本の歴史的展開の概説と、歴史史料の取り扱いの解説等を主な内容として、当館歴史部門学芸員４名が輪番制で開講するものです。今年度は９月下旬から11月上旬にかけて全６回が行われました。初回は史料解釈に必要な考え方や時代ごとの史料の特徴、歴史学を学ぶ上でお勧めな書籍の紹介、身近なものを使っての情報の読解演習等を行いました。第２回は中世に著された『吾妻鏡』や中世を描いた『義経記』等から歴史の形成過程を読み解き、第３回は近世の宗門改帳から見える当時の身分制や盛岡藩の人民支配のありかたをご紹介しました。第４回は明治維新後に新たに誕生した岩手県の成立過程や近世岩手の産業や財界人の紹介、第５回は東北地方の近現代開発史に焦点をあて、戦後岩手の変遷を学びました。最終回は当館が所蔵する近世の書籍の中から６点を取り上げ、近世の学問や文学、思想等を紹介しました。

13名の方にご応募いただき、全６回と長期間の講座でありましたが、終始熱心に受講していただき大変好評を得ることができました。歴史をより多角的に学んでいくきっかけになった参加者の方もいらっしゃったようです。同様の講座は来年も開講する予定であり、博物館や学芸員でなければできないような内容や構成となるようより一層の工夫をこらしていきたいと考えておりますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

（専門学芸員　昆　浩之）

第６回講座で取り扱った柳亭種彦著『西行法師御一代記』

岩手県立博物館
IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション　〈令和5年3月1日～令和5年6月30日〉

新型コロナウイルス感染防止への対応について

新型コロナウィルスへの対応のため、制限を設けながら開館しております。

入館の際にはマスクの着用をお願いしております。また手指の消毒、体調確認や体温測定へのご協力をいただいております。混雑する場合は入館や利用を制限し、状況によって臨時休館となることがあります。来館される皆様には大変ご面倒をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最新の情報につきましては当館ウェブサイト、SNS等でお知らせいたしますので、ご確認いただきますようお願いします。

・「体験学習室」は、一度に利用できる人数を大人こども合わせて15名程度とし、超過した際には入室をお断りいたします。平日は、9：30～16：00に開室し、12：30～13：30は消毒などのため、一時閉室いたします。土日祝日と県内小学校の春季休業の期間は、時間制＆入替制とし、入替時には遊具の消毒などのため、一度全員に退室していただきます。

・「映像室」は定時上映のみ行い、上映開始後の途中入場はご遠慮いただいています。詳しくはお問合せください。

・解説付見学は、別途ご相談ください。

お知らせ

GW期間中の開館のお知らせ

GW期間中の**5月1日(月)**は、休まず開館します。

国際博物館の日記念　入館無料の日

国際博物館の日にちなみ、**5月18日(木)**の入館料を無料とします。

展覧会

●新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編

令和5年3月25日(土)～5月7日(日)

会場：2階・特別展示室

◆展示解説会

①3月26日(日)　②4月23日(日)

15：00～16：00　会場：特別展示室　当日受付(定員20名)要入館料

●地質情報展

令和5年3月10日(金)～3月12日(日)

会場：2階・グランドホール・特別展示室ほか

●5大ダム探検大作戦

令和5年6月10日(土)～8月20日(日)

会場：2階・特別展示室

県博日曜講座

第2・第4日曜日 13：30～15：00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座

3月12日「困った鳥：カワウ」　講師：髙橋雅雄(当館学芸員)

3月26日「絵図の魅力に触れる　～本館収蔵の絵図を題材に」　講師：村田雄哉(当館学芸員)

*4月 9日「剥製から生まれる鳥類学」　講師：髙橋雅雄(当館学芸員)

*4月23日「生命史をひも解く―白亜紀(後編)―」　講師：望月貴史(当館学芸員)

5月14日「地図にみる明治のいわて」　講師：村田雄哉(当館学芸員)

5月28日「天台寺周辺の古代遺跡」　講師：丸山浩治(当館学芸員)

6月11日「骨からわかる生物の進化」　講師：渡辺修二(当館学芸員)

*6月25日「5大ダムが岩手県に果たしてきた役割(仮)」　講師：北上川ダム統合管理事務所職員

国際博物館の日

◆国際博物館の日記念　県博バックヤードツアー

5月21日(日)　事前申込(応募者多数の場合は抽選)

国際博物館の日にちなみ、普段は見られない収蔵庫などを特別にご案内します。いずれかのコースを選んでお申込みください。(各回定員5名)

自然コース　10：20～11：40

歴史コース　13：20～14：40

募集期間：4月4日(火)～4月25日(火)必着

応募方法：往復葉書に①参加希望コース、②住所、③参加者全員の氏名、④電話番号を明記の上、当館「県博バックヤードツアー」宛に郵送してください。

週末の催し

◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13：30～15：00頃　講堂 当日受付 視聴無料

○3月4日　小津安二郎の名作2(実写／136分／一般向け)
東京物語

○4月1日　小津安二郎の名作選(実写／94分／一般向け)
父ありき

○5月6日　GWこどもスペシャル(計67分／幼児～小学生向け)
①名作アニメシリーズ　めいさくどうわ集〔アニメ／計31分〕
【オズのまほうつかい】【みにくいあひるのこ】【ふしぎの国のアリス】
②よっちゃんの不思議なくれよん〔アニメ／22分〕
③おおきなかぶ〔人形劇／14分〕

○6月3日　出会いとふれあい(実写／117分／一般向け)
山下清物語 裸の大将放浪記

◆チャレンジ！ はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ！ マークをさがして はくぶつかんをたんけん！

3月11日・12日・18日・19日　テーマ：3・サン・三(さん)

4月 8日・ 9日・15日・16日　テーマ：美(び)

5月13日・14日・20日・21日　テーマ：白(しろ)

6月10日・11日・17日・18日　テーマ：花(はな)

◆たいけん教室～みんなでためそう～（事前申込制）

毎週日曜日　13：00～14：30

幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生10名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。

※全プログラム有料です(材料費代／プログラムごと異なります)。

※予約は専用メール(一度に3名まで)で受け付け、応募多数の場合には抽選を行います。詳細は博物館ホームページをご確認ください。

3月	19日　アンモナイトの消しゴムづくり 26日　手づくり万華鏡★	5月	7日　土器づくり 14日　アンモナイトの消しゴムづくり 21日　オリジナル卵をつくろう 28日　草花のそめもの
4月	9日　スライムであそぼう 16日　化石のレプリカ 23日　こいのぼりづくり 30日　まが玉アクセサリー	6月	4日　チャグチャグ馬コづくり 11日　カラフルクモづくり 18日　手づくり万華鏡 25日　ウォータードームづくり

★印は午前(10：00～11：30)と午後(13：00～14：30)の2回あります。

利用のご案内

■開館時間　9：30～16：30(入館は16：00まで)

■休 館 日　月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

■入 館 料　一般310(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料
(　)内は20名以上の団体割引料金

※岩手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様とご一緒に来館された場合は、入館料免除となります。

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより
第176号
令和5年3月1日発行

編集　岩手県立博物館
〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34
Tel. (019)661-2831／Fax. (019)665-1214
発行　公益財団法人岩手県文化振興事業団
〒020-0023 盛岡市内丸13-1
Tel. (019)654-2235／Fax. (019)625-3595